

日吉津村自治基本条例策定委員会（第3回）議事録

日時：10月23日（火）午後7時30分～9時30分

場所：役場第1、2会議室、第3会議室、委員会室

出席者 田中委員長、山路副委員長、長谷川委員、建部委員、松岡委員、住田委員、松本委員、河中委員、三島委員、破戸委員、井上委員、田邊委員、池田委員

欠席者 山崎副委員長、成瀬委員、土井委員、西委員、奥田委員、川原委員、高森委員

事務局 前田課長、高田課長補佐、福井主査、矢野係長

委員長あいさつ

- ・今回も意見についてグループ討議を行なう。よろしく願います。

協議

（事務局）

- ・策定委員会の議事録については、内容を見て頂き、訂正等あれば後日連絡をください。確認後は村のホームページに掲載する。また委員の名簿（職名・名前のみ）も掲載するので、ご了承を。
- ・以降、随時ホームページに掲載するので、みなさんもお覧頂きたい。

（委員全員）

- ・了解

自治基本条例の内容の検討について

グループ討議・・・各委員からの事前意見（下線）について、引き続き協議。

グループ1

行政

村長...方針を明確に。わかりやすい表現で伝えてほしい。

- ・そのとおり。・リーダーシップの発揮がない。
- ・合併議論の時も、他にも住民の判断に任せると言いながら、自分の意見は言わない。トップの方向性が見えない。

職員...地域の密着は良いが、公私のけじめはきちんと線引きを。

（委員全員）そのとおり。

行政は、村民が「自分達が住む地域、村は自分たちが創っていきこう」という認識を持つための働きかけを。

（委員全員）そのとおり。まず働きかけが必要。

情報公開、職員の努力。

- ・情報の共有が必要。

- ・ T B Gの大会が先般開催されたが、多くの村民が知らなかったと思う。昨年の大会は看板もあり、事前から P Rされていた。
- ・ 役場からは、村報やホームページでもお知らせしていたが、中川先生の話にもあったように「住民は広報を読んでいない」ということ。周知の手段や方法の検討が必要ではないか。
- ・ せっかく情報提供されているのに、村報を読まないのは住民側にも責任がある。
- ・ 職員の努力とは賃金のことか。
- ・ 一般論として公務員の給与は低い方がよいという意見が多いが、公務員給与が下がると、連動して地域の民間給与もさがり、地域経済に悪循環が生じる面もある。
- ・ 公務員の給与は一概に低ければよい訳ではない。人材確保も必要。適正な水準であることが必要。

役場植え込みの雑草

- ・ きれいにこしたことはない。植え込みに限らず、職場の机の上の整理整頓が必要。机の上に書類が山積みでは良い仕事も出来ないのではないか。

行政の仕事はコーディネート役

- ・ 以前、蜂の巣の撤去で役場に問い合わせた住民がいて、そのときの対応が、「業者に依頼してください。」との返事であったとのこと。住民はわからないので役場に問い合わせている。業者を紹介するとか、連絡をとるとかできないものか。

村長は我がまちをどういうふうにしたいのか述べてほしい。

- ・ 先ほど議論した内容と同じ。

職員、積極的な行動姿勢を示してほしい。課長は指導力を、職員の連携を

- ・ 職員の姿が見えない。行事・講演会等もっと関心を持ってほしい。課長、村長の指導力が必要。職員プロジェクトチームのように一丸とならなければならぬ。そのためにはトップの方向性を示す必要がある。

小さな行政区では、役場の風紀が村全体に影響を及ぼす。

- ・ 役場の風紀とは姿勢のことか。
- ・ 先般開催された T B G大会について、役員は大会が無事に終わればよいという雰囲気。本来はより良い大会にしたいという雰囲気が必要では。このような場が「参画と協働」を実践できる場ではないのか。
- ・ 実行委員会形式であったが、実際は事務局を役場が行っており、役場が中心だった。
- ・ 住民として参加してもよいとか、参加したいという人は多いと思う。しかし自ら積極的に参加しにくいので、参加できるきっかけづくりが必要だ。最初の一步が肝心なので、役場やメンバー（住民）からの誘いが有効ではないか。

議会

- ・議員活動の内容がわかりにくい。・日常の活動が見えない。顔も見えない。議会活動の報告が必要。各議員が年1回以上は活動報告をすべき。
- ・議員の数は多いのか少ないのかわからない。職員を減らすと住民サービスに影響がでるが、議員をへらしてもそんなに悪影響がなければ減らしてもいい。
- ・議会の活動は委員会、全員協議会等すべて公開すべき。すべてケーブルテレビの放送も。番組は編集していないので、番組案内で概ねの内容・時刻など案内してほしい。
- ・議会報は忘れた頃に配布される。議事録のホームページへの掲載も遅い。

グループ2

村民

補助金体質から抜け出れない人が多い。

- ・補助金の見直しがあつたと思うが、支出の評価というか精査をしっかりと行い、次の補助金を出すときに参考としなければならないと思う。金額だけではなく使い道がどうなのか、前年と同じ補助の仕方はだめだと思う。
- ・団体、村民も補助金は貰わないといけないという体質になっている。
- ・他市町もあるのだろうか。日吉津が突出しているということではないか。
- ・突出しているわけではない。
- ・行政も審査会で精査しないといけないが、団体や村民も補助金は貰えるもの、貰わないといけないという体質になっている。そういう体質を変えていかないといけないという意見だと思う。

「広報」を発行しても...住民には伝わっていないのが常である。

- ・前よりは折り込みのチラシが少なくなり、読まれていると思うが、まだまだ読まない人が多い。また、日吉津は住民検診など広報に掲載した上に個人宛の通知も来るが、米子市は掲載するのみで通知は来ない。村民にある程度責任を持たせないと広報を読まないのかもしれない。日吉津は過剰すぎる。このような話をする場としての行政座談会であれば良いと思う。
- ・**村民**という項目全体の意見を見ていくと、無関心な人が多く、関心のある人はごく一部の人(限定されている)だと感じる。目標は、自治基本条例に反映させることだから、この無関心の人をどういう風に向けさせるのかということだと思う。
- ・前回の討議にもあつたが、一つ役を受けたら色々な役をしないといけないというところを解消することも一つだし、座談会形式でそのような話をすることも大事だと思う。
- ・TBG 大会など実行委員会形式のイベントが、事務局依存になり行政のコーディネーターが出来ていない。村民も自分たちのこととして中心に動かないといけないと思う。チューリップマラソンなど始まったところは、自分たち

の手づくりでやっていた。

- ・行政にも問題があるかもしれないが、悪いことがあると村民が矛先を行政に向けて解決しようとするのはどうかと思う。
- ・実行委員会が、村民の参画のキーワードとなりそう。
- ・行政も村民も両方が考えないといけないということ。
- ・村民の参加だけではなく、参画しなければ。
- ・行政に、村民に関わる場所の部署を作ったらよいのでは。
- ・村民への投げかけ方も大事だと思う。

自分たちが住む地域、村は...認識を持つ。

- ・自分たちの問題としての認識が低い。身近なことで考えなければいけないというものではない限り、自分から向かない。
- ・住んでいるむらづくりは、...は、行政などでむらづくりは考えられていて自分たちのものとして感じてない。それは違うのだということを言わないといけないと思う。
- ・全体的に村民は無関心ではだめ、関心をひく行政の工夫と村民の意識の持ち方をどういう言葉にしていけるかということ。
- ・行政が余り関わらず実行委員会がすることになると、自ずと関心のない人たちにも声がかかる機会が広がる。
- ・例えば、この条例の説明会を自治会で行なうときに、行政が説明するだけではなく、各委員さんが説明に携わったり出来れば、村民も興味を示し関心を持って参加し、討議も活発になるのではないか。

地域

- ・今吉は活発にコミュニティが取組まれているが、自治会のあり方は早急に検討が必要ではないか。アパート等も増え、自治会の区分を見直すことが必要と思う。
- ・意見にもあるが、自治会への未加入や自治会内のコミュニケーションが取れないなど不具合が出ている。
- ・活発なコミュニティ活動が、継続してモチベーションを高く持つということが難しくなっている。
- ・イベントなど、実際、同じ人が参加しているようで、維持は出来るがマンネリ化になってきている。
- ・「すばらしい公民館はあるが、...活用できないか。」は、公民館の鍵が開けてあれば、中央公民館と連携し自由に利用できるのではないか。例えば、講演会を中央ばかりでしているが、公民館を回ることで、参加者も増えるのでは。
- ・公民館を活用する機会がなくて、こども会ぐらいしか利用できていない。時間も合わない。鍵が開いていても、中々活用できないのではと心配する。
- ・働いている人にとっては難しいが。面白い意見で、とても良さそうなので、

コミュニティで提案してみよう。

- ・昔は、自治会公民館でよく遊んだ記憶がある。大事なことだと思う。
- ・その他、自治会の役員は女性も出て欲しい。組織のあり方も見直さなければならぬと思う。

グループ3

- ・「行政」を読み、村長の言う「協働と参画」を職員は理解（意識）しているのかと疑問に思った。
- ・議会も問題はあるが、村民が問題だ。自分も含めて、役場・議会・地域の活動にあまりにも無関心。
- ・「地域」の「向こう3軒両隣の精神」や「村づくりは、村民一人ひとりであること」、「我関せずではなく関心をもつことが大事」ということは分かっている。それでは、これらに向かうためにはどうするかと言われると、どうしていいか分からない。
- ・自治会活動で一生懸命活動しても、やっている人だけで盛り上がっている感じがする。イベントをしても同じ人ばかりが参加。
- ・やっている人が浮いてくる感じがある。
- ・先日、日上2で芋掘りをしたが、自分がやめたらできなくなるだろう。掘って食べるだけではなく、水やりや苗植えも子どもにさせてはどうかという人もいるが、小学校でも野菜植えをしているので子どももそこまで関わらないだろう。（別では）子どもが集まらないので、子ども会の廃品回収の日にあわせて実施している。
- ・（廃品回収は）子どもが集落を歩く機会になるだけでもいいこと。
- ・海川では、西川ふれあい祭で川下りをしていて（親子ともども）顔見知り、交流する機会となっている。そういう仕掛けが必要だ。
- ・リーダー的な人の発掘も。
- ・「地域」の「向こう三軒両隣」は、コミュニティ活動をしなければできない。コミュニティは本当の人間づくり。そこで話し合われたものを持ちよれば、きっと良い条例ができるはず。
- ・「その他」の中に「情報の共有化」とあるが、できるか？
- ・行政は、国の施策や方向など、住民へ分かりやすく伝えなければならないが、行政用語を用いないで伝えることが難しい。行政が工夫をしなければならない。
- ・みんなが関心を持ち議事を傍聴に行けば、議員の皆さんもしっかり発言するかもしれない。
- ・議会は下話をして物事を決めているのか？ 何回か傍聴に行ったが、重要議題は全員協議会で話し合い、大方決まるようだ。
- ・全員協議会は、役場からある程度説明しておかなければならないことを事前に説明するという場であり、決定する場ではない。

- ・議員も年4回の議会以外にも、何かと忙しいのだが、村民へは分かりにくい面もある。
- ・日吉津に来て30年経つが、議員に意見を聞かれたことがない。
- ・議員は、行政のチェックという役割のほかに、住民のリーダーでもある。
- ・行政座談会は行政が行っているが、議員自身が住民を対象にしてもいい。
- ・**議会**のところで「議員と住民の対話する機会を」と提案した。
- ・身近に感じるためにはまず議場に行くことだと思う。
- ・コミュニティ活動が進んでいるとあるが、最近、日上2は中だるみ。一時は、みんなで防災用に井戸を掘ろうかと盛り上がっていたが・・・。
- ・自治基本条例とコミュニティ計画、見え方は違うが、基本の考え方は共通している。条例の取り組みが、コミュニティ計画にもいい刺激になれば。
- ・(プライバシーの問題もあって)年寄りがどこにいるのかも把握していないので、防災計画に入れない。そこで、今吉では、隣近所が仲良くなるところから始めようと話し合った。
- ・日上2の防災の計画は、地に足の付いた良い計画だ。

全体会 21:10～

グループ1

- ・前回に引続き一つずつ話し合ったが、行政がとりあえず終了し、議会については少し話ただけで、引き続き討議をしていく。

グループ2

- ・今回は、村民と地域について話したので、主なものについて発表する。
- ・**村民**についての意見を集約すると、全体的に行政依存体質があり、関心があるのはごく一部の人ということ。
- ・**地域**については、コミュニティが基本となるだろう。コミュニティ 自治会 村全体。意見にもあったが、自治会ごとの公民館を開放するということを進めたら、コミュニティが充実し、老人や子どもが集まりやすいのではという意見だった。

グループ3

- ・全体を通しての話となったが、世間話から最近の事件についても話した。基本は、コミュニティ活動に尽きるのではないかという意見だった。

その他

(事務局)

- ・次回は、10月31日。この間の議事録などのポイントとなる点について中川先生からアドバイスを頂く。前半に先生を交えた全体会、後半でグループ討議を行い、議論を深めて頂く。
- ・委員のみなさんと視察に行けたらと考えている。(委員)ぜひ、計画を。

閉会